

お薬の使用ガイド

男性更年期（LOH症候群）・AGA・ED のお薬を安全に使うために

このガイドは、ロコクリニック中目黒メンズヘルス外来で処方・ご案内するお薬について、「使用前に確認していただきたいこと」と「使用中に気をつけていただきたいこと」を、お薬ごとにまとめたものです。

添付文書（医薬品の公式説明書）と学会の手引きに基づいて作成しています。

テストステロン注射（TRT）

グローミン軟膏

漢方薬（補中益気湯・八味地黄丸）

シルデナフィル

タダラフィル

デュタステリド

最初にお読みください

- ① いま使っているすべてのお薬・市販薬・サプリメントを必ずお申し出ください。
- ② 他の人に譲ったり、インターネットの個人輸入薬を併用したりしないでください。
- ③ 気になる症状が出たときは、自己判断で続けずにクリニックへご連絡ください。
- ④ この資料は要点をまとめたものです。最終的な判断は必ず診察時に医師と行います。

はじめに — 共通のお約束と資料の見かた

すべてのお薬に共通する大切なポイントです

共通

■ お薬をお使いになる前に、必ず4つを確認してください

確認すること	なぜ大切な
① 併用薬・サプリ	他院のお薬、市販薬、サプリメント、健康食品をすべてお伝えください。特に ニトログリセリンなどの「硝酸薬」(胸の痛みのお薬) を使っている方は、ED治療薬を使えません。
② 持病・既往歴	心臓・血管の病気、脳梗塞・脳出血・心筋梗塞の既往、肝臓・腎臓の病気、前立腺の病気、目の病気(網膜色素変性症)などは、お薬の選択が変わります。
③ お子さんを希望か	テストステロン注射やデュタステリドは、精子をつくる働きに影響することがあります。育児希望のある方は治療開始前に必ずご相談ください。
④ ご家族への配慮	デュタステリドのカプセルやテストステロンの塗り薬は、女性やお子さんが触れないようにする必要があります。

■ この資料の見かた(アイコンの意味)

× 使えない方 この状態にあてはまる方は、そのお薬を使用できません(禁忌)。必ず医師にお伝えください。	□ 使う前の確認 開始前にチェック・検査・申告が必要な項目です。	● 使用中の注意 飲み方・使い方、日常生活での注意点です。	▶ すぐ連絡 この症状が出たら、すぐに中止してご連絡・受診してください。
---	--	---	--

■ 目次

P3	ED治療薬を使うすべての方へ(共通の警告)	シルデナフィル／タダラフィル
P4	シルデナフィル 50mg	ED・内服
P5	タダラフィル 20mg／5mg(連日)	ED・内服
P6	デュタステリド	AGA・内服
P7	テストステロン注射(TRT)	男性更年期・注射
P8	グローミン軟膏(テストステロン軟膏)	男性更年期・外用
P9	漢方薬(補中益気湯・八味地黄丸)	男性更年期・内服
P10	出典一覧・ご連絡先	参考文献

お願い	受診・救急のときは「服用中のお薬」を必ずお伝えください
- 胸の痛みなどで救急受診するときは、ED治療薬を服用したこと(薬剤名と時間)を必ず伝えてください。硝酸薬との併用は過度の血圧低下を起こすおそれがあります。 - 前立腺の検査(PSA)を受けるときは、デュタステリドやテストステロンを使用していることを必ず伝えてください。検査値の読み方が変わります。 - 手術・歯科治療・他院での処方の前にも、当院で使用中のお薬をお伝えください。	

ED治療薬を使うすべての方へ

シルденаフィル・タダラフィルに共通する、最も重要な注意事項

ED 共通

警告 絶対に併用できないお薬（併用禁忌）

- × **硝酸薬・NO供与剤**：ニトログリセリン（ニトロペン、ミオコールスプレー等）、亜硝酸アミル、硝酸イソソルビド（ニトロール、フランドルテープ等）、ニコランジル（シグマート）など。貼り薬・スプレー・舌下錠も含まれます。
- × **リオシグアト（アデムパス）**：肺高血圧症のお薬です。
- × **アミオダロン（アンカロン）の飲み薬**：不整脈のお薬です。（シルденаフィルの禁忌）

これらと一緒に使うと、**血圧が下がりすぎて意識を失う・命にかかわる**おそれがあります。心臓・肺・血圧のお薬を使っている方は、薬の名前がわかるもの（お薬手帳）をお持ちください。

禁忌 ED治療薬を使用できない方（共通）

- × 心臓や血管の病気があり、**性行為そのものが体に負担と考えられる方**
- × **重い肝臓の障害**がある方
- × 血圧が低すぎる方・治療で管理できていない高血圧の方（具体的な数値は各ページ参照）
- × **最近の脳梗塞・脳出血・心筋梗塞**の既往がある方（期間の基準は薬剤ごとに異なります）
- × **網膜色素変性症**（目の遺伝性の病気）の方
- × その薬の成分でアレルギー（過敏症）が出たことがある方

注意 飲む量・間隔・併用に関する注意

- **1日1回まで。次に飲むまで24時間以上あけてください。**効かないからといって追加で飲むことは危険です。
- お薬の量の調整が必要な方：**高齢の方、肝臓・腎臓の機能が低下している方**、一部の抗真菌薬・抗菌薬・HIV治療薬・新型コロナ治療薬（パキロビッド、ゾコーバ等）を使っている方。
- **前立腺肥大症のお薬（α遮断薬）や血圧のお薬**と併用すると、血圧が下がることがあります。立ちくらみに注意してください。
- 飲酒は血圧低下やEDそのものを悪化させることがあります。多量の飲酒は避けてください。
- インターネット等で購入した薬には偽造品が多く報告されています。**必ず医療機関で処方されたもの**をお使いください。

救急 次の症状が出たら、ただちに受診してください

- ▶ **勃起が4時間以上続く／痛みを伴う勃起が6時間以上続く（持続勃起症）**
放置すると勃起機能が回復しなくなるおそれがあります。ためらわずに受診してください。
- ▶ **急に視力が落ちた・見えなくなった（片眼でも）**→ 服用を中止し、眼科を受診してください。
- ▶ **胸の痛み・強い息切れ・失神**→ 救急受診し、ED治療薬を飲んだことを必ず伝えてください。
- ▶ **顔や唇の腫れ、全身の発疹、皮膚のはがれ**（重いアレルギー反応が報告されています）

シルデナフィル 50mg

PDE5阻害薬（バイアグラと同じ成分）／ 自費診療

ED

シルデナフィル Sildenafil

性行為の前に1回のみ服用

飲み方	性行為の約 1時間前 に1回服用します（1日1回、25～50mg）。次に飲むまで 24時間以上 あけてください。
食事	食後に飲むと、空腹時より 効果が現れるのが遅くなる ことがあります。食事の直後は避けるのが望ましいです。
少量から	65歳以上の方、肝臓の障害がある方、重い腎臓の障害がある方は25mgから 開始します。
効果	性的刺激があって初めて効果が出ます。飲むだけで勃起するお薬ではありません。

禁忌 このお薬を使用できない方

- × 硝酸薬・NO供与剤（ニトログリセリン、亜硝酸アミル、硝酸イソソルビド、ニコランジル等）を使用中の方
- × **アミオダロン塩酸塩（飲み薬）**を使用中の方 ／ **リオシグアト（アデムパス）**を使用中の方
- × 心臓・血管の病気などで**性行為が不適当**と考えられる方
- × 重い肝機能障害のある方
- × **血圧が90/50mmHg未満の方、または安静時の血圧が上（収縮期）170mmHgを超える／下（拡張期）100mmHgを超える、治療で管理できていない高血圧の方**
- × **最近6ヵ月以内に脳梗塞・脳出血・心筋梗塞を起こした方**
- × 網膜色素変性症の方 ／ 成分に過敏症の既往がある方

確認 使う前に医師にお伝えください

- ☐ 6ヵ月より前の脳梗塞・脳出血・心筋梗塞の既往（心臓の状態の確認が必要です）
- ☐ 心臓の病気、不整脈、血圧の状態
- ☐ 肝臓・腎臓の病気
- ☐ 陰茎の形に生まれつきの異常がある、または手術を受けた
- ☐ 鎌状赤血球性貧血、多発性骨髄腫、白血病（持続勃起を起こしやすくなります）
- ☐ 出血しやすい病気、胃・十二指腸潰瘍
- ☐ 多系統萎縮症（血圧が下がりやすくなります）
- ☐ 他のED治療薬・PDE5阻害薬（肺高血圧症のお薬を含む）の使用

注意 使用中の注意点

- **めまい・見えにくさ**が出ることがあります。自動車の運転や機械の操作は注意してください。
- よくある副作用：**頭痛、顔のほてり・赤み、鼻づまり、胃の不快感、目の充血、ものが青みがかって見える**。多くは一時的です。
- 血圧のお薬・前立腺肥大症のお薬と併用すると、立ちくらみが起きやすくなります。

救急 ただちに受診

- ▶ 4時間以上続く勃起／6時間以上続く痛みを伴う勃起
- ▶ 急な視力低下・視力喪失（片眼でも）
- ▶ 胸痛、強い息切れ、失神、けいれん

タダラフィル 20mg / 5mg (連日)

PDE5阻害薬 (シアリスと同じ成分) / 自費診療

ED

タダラフィル Tadalafil

効果が長く続くタイプ

飲み方	性行為の約1時間前に1回服用します(1日1回10mg、効果不十分なら20mg)。次に飲むまで24時間以上あけてください。
効果の長さ	添付文書では服用後36時間まで有効性が確認されています。裏を返すとその間は体内に作用が残るため、硝酸薬を使えないなど安全面の注意が続きます。
食事	食事による吸収への影響は認められておらず、食事の有無にかかわらず服用できます。
量の調整	腎臓・肝臓の機能が低下している方、CYP3A4を阻害するお薬を併用する方は、開始量・上限量・服用間隔の調整が必要です。

禁忌 このお薬を使用できない方

- × 硝酸薬・NO供与剤を使用中の方 / リオシグアト(アデムパス)を使用中の方
- × 心臓・血管の病気などで性行為が不適当と考えられる方
- × 不安定狭心症の方、性交中に狭心症を起こしたことがある方
- × 管理できていない不整脈、低血圧(90/50mmHg未満)、管理できていない高血圧(170/100mmHgを超える)の方
- × 最近3ヵ月以内の心筋梗塞 / 最近6ヵ月以内の脳梗塞・脳出血の既往がある方 ※シルデナフィルとは期間の基準が異なります。
- × 重い肝機能障害のある方 / 網膜色素変性症の方 / 成分に過敏症の既往がある方

確認 使う前にお伝えください

- ☐ 心臓・血管の病気、不整脈、血圧の状態
- ☐ 肝臓・腎臓の病気(用量調整が必要です)
- ☐ 陰茎の形の異常、持続勃起を起こしやすい病気(鎌状赤血球性貧血など)
- ☐ 出血しやすい病気、胃・十二指腸潰瘍
- ☐ 併用薬: ケトコナゾール、イトラコナゾール、クラリスロマイシンなど、α遮断薬(ドキサソシン、テラゾシン等)、血圧のお薬

注意 使用中の注意点

- グレープフルーツジュースは避けてください。お薬の血中濃度が上がるおそれがあります(併用注意)。
- よくある副作用: 頭痛、顔のほてり・潮紅、胃の不快感(消化不良)、背中や筋肉の痛み、目のかすみ・充血。
- めまい・見えにくさが出ることがあるため、運転や機械の操作に注意してください。
- 24時間以内の追加服用はしないでください。

重要 「デイリータダラフィル 5mg (毎日1錠)」についての大切なご説明

- 国内で承認されているED治療としての用法は「性行為の約1時間前に1回服用」です。毎日1錠を継続して服用する使い方は、国内承認の用法とは異なる使用(自費診療)となります。ご希望・ご不安があれば遠慮なくご相談ください。
- 連日服用でも1日1錠を超えないでください。禁忌・併用禁忌・注意点は20mgと同じです。
- 飲み忘れた場合も、まとめて2錠飲まないでください。
- 同じ成分でも「ザルティア錠」は前立腺肥大症に伴う排尿障害のお薬で、1日1回の連日服用が承認されています。ED目的の連日服用とは別のお薬・別の目的です。

救急 ただちに受診してください

- ▶ 4時間以上続く勃起 / 6時間以上続く痛みを伴う勃起
- ▶ 急な視力低下・視力喪失、急な聴力低下・耳鳴り
- ▶ 胸痛、強い息切れ、失神、片側の手足の力が入らない・言葉が出ない(脳卒中の疑い)
- ▶ 発疹・蕁麻疹・顔の腫れ、皮膚がはがれるような症状(重いアレルギー反応)

デュタステリド (AGA治療薬)

5α還元酵素阻害薬 (ザガーロと同じ成分) / 自費診療・最大2ヵ月分処方

AGA

デュタステリド Dutasteride

男性の男性型脱毛症 (AGA)

飲み方	1日1回1カプセルを服用します (0.1mg、必要に応じて0.5mg)。飲む時間は毎日同じ頃にとすると忘れにくくなります。
効果判定	効果の評価には通常6ヵ月間の継続が必要です。すぐに効果が出なくても自己判断で中止せず、6ヵ月続けても改善が見られない場合は継続の可否を相談します。
体内に残る期間	血液中から消えるまでの半減期は3.4±1.2週間と長く、中止後も数ヵ月は体内に残ります。
中止後	やめると徐々に元の状態に戻っていきます。継続について医師と相談してください。

禁忌 このお薬を使用できない方

- × 女性 (妊婦・授乳婦を含む)、小児等 ※適応は「男性における男性型脱毛症」のみです
- × 重い肝機能障害のある方
- × 本剤の成分や他の5α還元酵素阻害薬 (フィナステリド等) で過敏症が出たことがある方

確認 使う前に必ず確認・ご相談ください

- ☐ 前立腺の検査 (PSA) を受ける予定・受けたことがあるか。本剤は投与6ヵ月後にPSA値を約50%低下させます。服用6ヵ月以降のPSA値を新たな基準とし、測定値を2倍にして判断する必要があるため、検査時は必ず服用中であることを申告してください。
- ☐ お子さんを希望されているか。臨床試験で投与52週時点の総精子数が平均約23%減少したとの報告があります (平均値は正常範囲内)。育児をご希望の場合は治療の可否を改めて相談します。精液中にも移行します (精液中 / 血清中濃度比 平均11.5%)。
- ☐ 肝臓の病気があるか (重度でない肝機能障害の方でのデータは検討されていません)。
- ☐ 併用薬 (リトナビル等、CYP3A4を強く阻害するお薬で血中濃度が上がる可能性があります)。
- ☐ ご家庭に妊娠の可能性のある女性・お子さんがいらっしゃるか。

注意 使用中の注意点

- カプセルは噛んだり開けたりせず、そのまま飲んでください。薬剤は皮膚から吸収されるため、女性やお子さんは漏れた薬剤に触れないようにしてください。触れた場合はただちに石鹸と水で洗ってください。
- 服用中および最終服用から6ヵ月間は献血ができません (日本赤十字社の基準)。
- 保管は他の人が誤って飲まないよう、お子さんの手の届かない場所に。
- 主な副作用: 勃起不全 (4.3~10.8%)、性欲減退 (3.9~8.3%)、精液量減少 (1.3~4.2%)、乳房の症状 (女性化乳房・乳頭痛・乳房痛)、発疹・体毛の脱落。※頻度は海外試験〜国内長期投与試験 (0.5mg群) の範囲です。
- デュタステリドを服用した前立腺肥大症の患者で男性乳癌の報告がありますが、因果関係は明らかになっていません。

連絡 次のときはご連絡ください

- ▶ 白目や皮膚が黄色い、強い疲労感、尿が濃い (肝機能障害・黄疸が報告されています)
- ▶ 乳房のしこり・痛み・乳首からの分泌
- ▶ 発疹・蕁麻疹が広がる、顔が腫れる
- ▶ 気分の落ち込みが続く

補足 ご家族への説明のために

- ・ 妊娠中の女性が薬剤に触れたり服用すると、男子胎児の外生殖器の発達に影響する可能性が示唆されています。薬は個人のものとして管理してください。

テストステロン注射 (TRT)

テストステロンエナント酸エステル筋注 / 男性更年期 (LOH症候群)

LOH

テストステロン注射 Testosterone enanthate

2～4週ごとの筋肉注射

打ち方	男子性腺機能不全に対し、100mgを7～10日ごと、または250mgを2～4週ごとに筋肉注射します。当院では症状と数値に合わせて2～4週ごとに調整します。
効果判定	およそ3ヵ月ごとに効果を評価し、継続するかを相談しながら決めます。開始後3ヵ月程度で採血を行います。
注射後	注射部位の痛み・赤みが出ることがあります。強くもまず、清潔に保ってください。

禁忌 使用できない方

- × 前立腺癌などアンドロゲン依存性の悪性腫瘍がある方、その疑いがある方
- × 妊婦または妊娠している可能性のある女性 (本剤は男性の治療に用います)

※電子添文上の禁忌は上記2項目です。過去にホルモン注射で発疹などが出た方は、必ず事前にお知らせください。

確認 開始前に必ず行う確認・検査

- ☐ 前立腺の検査 (PSA等) : 前立腺癌の有無を確認します。開始後も定期的に検査します。
- ☐ 血液検査: テストステロン値のほか、赤血球・ヘモグロビン・ヘマトクリット (多血症の確認)、肝機能、脂質など。
- ☐ 育児希望の有無: テストステロン補充は精子をつくる働きを抑え、不妊の原因になり得ます。お子さんを希望される方には別の治療を検討します。
- ☐ 次の病気・症状がある方はお伝えください: 前立腺肥大 (増大するおそれ)、心疾患 (ナトリウム・体液の貯留で悪化のおそれ)、腎疾患、肝機能障害、睡眠時無呼吸症候群、骨への転移がある腫瘍 (高カルシウム血症のおそれ)。
- ☐ 併用薬: ワルファリンなどの抗凝血薬は作用が強まるおそれがあります。

注意 治療中に気をつけること

- 定期的な血液検査・前立腺の検査を必ず受けてください。報告されている副作用には、多血症 (血が濃くなる)、心血管疾患、睡眠時無呼吸症候群の悪化、脂性肌・にきび、乳房痛、肝障害、不妊などがあります。
- 特に大量に継続して投与すると、精巣の萎縮・精子の減少・精液の減少など精巣の働きが抑えられることがあります。
- 手足のむくみ、体重の急な増加に注意してください (体液が溜まる場合があります)。
- いびきが強くなった・日中の強い眠気が出た場合はお知らせください。
- 効果を焦って自己判断で間隔を詰めないでください。

連絡 次のときはご連絡ください

- ▶ 勃起が長時間続く (持続性勃起)
- ▶ 顔・手足の強いむくみ、急な体重増加、息切れ
- ▶ 白目や皮膚が黄色い、強い疲労感 (肝機能異常)
- ▶ 頭痛・のぼせ・顔の赤みが強い (多血症の可能性)
- ▶ 排尿しにくい、尿が出にくい、尿に血が混じる
- ▶ 注射部位の強い痛み・腫れ・熱感

補足 治療の前に

- LOH症候群の治療は、生活習慣 (睡眠・運動・減量・禁煙・節酒) の改善が土台になります。注射と併せて取り組みましょう。
- 本剤の承認された効能は「男子性腺機能不全 (類宦官症)」などです。保険が使えるかどうかは検査結果・診断によって異なりますので、診察時にご確認ください。

グローミン軟膏(テストステロン軟膏)

第1類医薬品(市販薬) / 男性ホルモンの外用補充

LOH

グローミン テストステロン 100g中1g

1日1~2回 塗布

塗り方(男性) 1回チューブから約2cmを、1日2回(朝・晩)塗ります。症状が改善したら1日1回に減らします。

塗る場所 陰のう、あごの下、または腹部など。

塗ってはいけない場所 目のまわり、粘膜、陰茎の先端には使用しないでください。

使用後 石けんとぬるま湯で手をよく洗ってください。使用者以外に薬剤が付着しないようにします。

使用不可 次の方は使用しないでください

- × アンドロゲン依存性腫瘍(前立腺癌など)がある方、その疑いのある方
- × 排尿困難を伴う前立腺肥大のある方
- × PSA値が2.0ng/mL以上の方 → 使用せず、まず医師にご相談ください
- × 睡眠時無呼吸症候群の方
- × 悪性の乳腫瘍(乳癌)がある方、その疑いのある方
- × 小児(医師の判断に従ってください) / 妊娠中・妊娠の可能性のある女性・授乳中の方
- × 本剤の成分でアレルギー症状を起こしたことがある方

確認 使う前に相談してください

- ☐ 現在、医師の治療を受けている方
- ☐ 薬などでアレルギー症状を起こしたことがある方
- ☐ 重度の心臓病・腎臓病・肝臓病、高血圧またはその既往歴のある方
- ☐ 前立腺の検査を受ける予定がある方(結果に影響します)

注意 使用中の注意点

- 決められた量・回数を守ってください。多く塗っても効果は高まりません。
- 塗った部分をご家族(特に女性・お子さん)の肌に触れないようにしてください。触れた場合は洗い流してください。
- 塗った後は乾くまで衣服を密着させないようにし、塗布直後の入浴・シャワーは避けてください。
- 他のテストステロン製剤(注射など)との併用は、必ず医師に確認してください。
- 直射日光を避け、涼しく湿気の少ない場所に密栓して保管。お子さんの手の届かない所に置いてください。

中止 次の症状が出たら、ただちに使用を中止してご相談ください

- ▶ 塗った部分やその周囲の発疹・発赤・かゆみ・かぶれ・はれ
- ▶ 血圧の上昇、頭痛、のぼせ
- ▶ 排尿しにくい、尿の回数が増えた
- ▶ 1ヵ月ほど使用しても症状が改善しない場合、または変声など男性化のきざしが出た場合もご相談ください。

補足 市販薬ですが、自己判断での長期使用は避けてください

- ・ 市販薬(第1類医薬品)ですが、テストステロンを体に入れるお薬です。当院で使用中等であることを必ずお伝えください。他院での前立腺の検査やホルモン検査の結果に影響します。
- ・ 症状が続く場合は、血液検査でテストステロン値を確認し、治療方針を見直します。

漢方薬(補中益気湯・八味地黄丸)

症状や体質に応じて用います / 医療用漢方製剤

LOH

補中益気湯 ほちゅうえきとう

疲れやすさ・食欲低下に

飲み方 通常、成人1日7.5gを2～3回に分け、**食前または食間(食事の2時間後頃)**に服用します。

含まれる生薬 **甘草(カンゾウ)**を含みます。血清カリウム値や血圧に注意が必要です。

確認 使う前にお伝えください

- ☐ 他の漢方薬・市販の風邪薬・のどの薬を飲んでいるか(甘草が重複しやすく、副作用が出やすくなります)
- ☐ グリチルリチン酸を含むお薬・アルドステロン症・低カリウム血症・ミオパチーの既往
- ☐ 高血圧、心臓・腎臓の病気
- ☐ 高齢の方は量を調整することがあります

連絡 次の症状はすぐご連絡ください

- ▶ 手足のだるさ・力が入らない・筋肉の痛みやこわばり、けいれん(偽アルドステロン症・ミオパチー)
- ▶ むくみ、体重増加、血圧の上昇
- ▶ 階段を上がるときの息切れ、空咳、発熱(間質性肺炎)
- ▶ 白目や皮膚が黄色い、強い疲労感(肝機能障害・黄疸)
- ▶ 発疹・蕁麻疹、食欲不振、胃の不快感、吐き気、下痢

八味地黄丸 はちみじおうがん

冷え・頻尿・腰の重さに

飲み方 通常、成人1日7.5gを2～3回に分け、**食前または食間**に服用します。

含まれる生薬 **附子(ブシ末)**・**地黄(ジオウ)**などを含みます。体質によって合わないことがあります。

確認 次の方は慎重に使用します

- ☐ 体力が充実している方(副作用が出やすくなります)
- ☐ 暑がり、のぼせが強い方(動悸・のぼせ・舌のしびれが出ることがあります)
- ☐ 胃腸が弱い方(食欲不振・吐き気などが出る場合があります)
- ☐ 他の漢方薬との併用(生薬が重複します)
- ☐ ボタンピ・ブシ末を含むため、**妊婦またはその可能性のある方には使用しないことが望ましいとされています**

連絡 次の症状はご連絡ください

- ▶ 動悸、のぼせ、舌のしびれ
- ▶ 食欲不振、胃の不快感、吐き気・嘔吐、腹痛、下痢・便秘
- ▶ 発疹・赤み・かゆみ
- ▶ 肝機能の数値の異常を指摘された

共通 漢方薬に共通する注意点

- 漢方薬は「証(体質・症状)」に合わせて選びます。**一定期間使用して改善がない場合は、続けずにご相談ください。**
- 複数の漢方薬・市販薬を自己判断で併用しないでください。同じ生薬が重なると副作用が出やすくなります。
- 「漢方は副作用がない」ということはありません。上記のような症状に注意してください。

出典一覧・ご連絡先

本資料は以下の一次資料（電子添文・学会資料）に基づいて作成しています

出典

ED治療薬

- ① バイアグラ錠25mg／50mg 電子添文（ヴィアトリス製薬） | KEGG MEDICUS 医療用医薬品情報 https://www.kegg.jp/medicus-bin/japic_med?japic_code=00066489
- ② バイアグラ錠 添付文書PDF（JAPIC 医薬品情報データベース） <https://pins.japic.or.jp/pdf/newPINS/00066489.pdf>
- ③ シアリス錠5mg／10mg／20mg 添付文書PDF（日本新薬／JAPIC） <https://pins.japic.or.jp/pdf/newPINS/00053585.pdf>
- ④ シアリス錠 医薬品情報（今日の臨床サポート） <https://clinicalsup.jp/jpoc/drugdetails.aspx?code=53585>

AGA治療薬

- ⑤ ザガーロカプセル0.1mg／0.5mg 添付文書PDF（グラクソ・スミスクライン／JAPIC） <https://pins.japic.or.jp/pdf/newPINS/00065940.pdf>
- ⑥ アボルブカプセル0.5mg 医薬品情報（今日の臨床サポート）※前立腺検査・PSAに関する注意の参照 <https://clinicalsup.jp/jpoc/drugdetails.aspx?code=57014>

男性更年期（LOH症候群）／テストステロン製剤

- ⑦ エナルモンデポー筋注125mg／250mg 添付文書PDF（あすか製薬／JAPIC） <https://pins.japic.or.jp/pdf/newPINS/00057507.pdf>
- ⑧ 日本メンズヘルス医学会「LOH症候群・男性更年期とは」（投与方法・副作用・モニタリング） <https://jsmh.jp/loh/>
- ⑨ グローミン（大東製薬工業）添付文書情報 | おくすり検索（日本医薬情報センター系データベース） <https://search.jsm-db.info/sp/detail.php?txtID=4956124000001> / KEGG MEDICUS 一般用医薬品 https://www.kegg.jp/medicus-bin/japic_otc?japic_code=J0601003773

献血に関する基準

- ⑩ 日本赤十字社「薬の服用と献血ができるまでの期間について」（アボルブ・ザガーロ＝6か月間延期、プロベシア＝1か月間延期） https://www.bs.jrc.or.jp/th/iwate/202302_fukuyaku.pdf

漢方薬

- ⑪ ツムラ補中益気湯エキス顆粒（医療用）電子添文 | 医薬品情報（今日の臨床サポート） <https://clinicalsup.jp/jpoc/drugdetails.aspx?code=5394>
- ⑫ ツムラ八味地黄丸エキス顆粒（医療用）電子添文 | 医薬品情報（今日の臨床サポート） <https://clinicalsup.jp/jpoc/drugdetails.aspx?code=5397>

当院の診療内容

- ⑬ ロコクリニック中目黒「メンズヘルス外来」 <https://loco-clinic.com/internal-medicine/mens-health/>

ご注意 本資料の位置づけ

- ・ 本資料は、当院メンズヘルス外来を受診される方向けに要点をまとめた**患者さん向け補助資料**です。すべての注意事項・副作用を網羅したものではありません。
- ・ お薬の最終的な適否・用量は、診察・検査結果をふまえて医師が判断します。ご不明な点は必ず診察時にご確認ください。
- ・ 記載内容は作成時点（2026年9月）の電子添文等に基づきます。改訂により内容が変わる場合があります。
- ・ ED治療薬・AGA治療薬は自費診療です。他の方へ譲渡しないでください。

お問い合わせ ロコクリニック中目黒 メンズヘルス外来

- ☐ ご予約：予約システムから「メンズヘルス外来」を選択してください。受診前にWEB問診（AMS問診を含む）のご記入をお願いします。
- ☐ 男性更年期（LOH）の採血は**午前中（9～11時）**の受診をおすすめしています。
- ☐ お薬に関するご相談・副作用のご連絡は、診療時間内にクリニックへお電話ください。